

ぐんま200年健康住宅 検討会議

ぐんま200年健康住宅 ニュースレター

県庁内で第2回検討会議開催 耐震シェルターなど具体案を提示

お知らせ

「群馬200年健康住宅検討会議」では、新たなメンバーを募集しています。工務店、建築設計、木業関係の方で法人、個人は問いません。木材の地産地消を目指し、ユーザーに喜ばれる良い住宅を真面目に造りたいと考えている方ならどなたでも歓迎します。参加資格は「夢を持つ、やる気がある、努力する、自ら汗がかけられる」人です。詳しくは事務局までご一報ください。

目次：

県庁内で第2回 1 検討会議開催

新たなメンバー 1 も参画し活発に 議論

県も積極的に支 2 援を進めたい

建設業吾妻支部 2 が勉強会開催

ムサビ 2 「EDSバンブー」 プロジェクト

第2回「ぐんま200年健康住宅」検討会議が10月26日(金)午前10時から群馬県庁294会議室で開催された。当日は台風20号の影響で朝からあいにくの雨模様となったが、広い会議室内に説明用のカットモデルやサンプルモデルが展示され第2回にして早くも熱の入った議論が繰り広げられた。会長の宮島先生(東京武蔵野大主任教授)は2日前にインドネシアから帰国したばかりで多忙な中、都内から学生2名を連れて駆けつけ、挨拶で「2回目から県庁の会議室で会議が進められることは非常に意義深いことであり責任感が沸き上がる、プランの具体化をスピーディに実行しよう!」とメンバーを激励し、実学と現場教育を重視する宮島先生の教育姿勢が姿勢が印象的であった。

県から「ぐんま200年健康住宅」の推進に関する提案書(案)の概要説明を受けた後、早速EDS研究所の石井所長と斉藤建築設計事務所の野口さんから、開発したばかりの耐震構造と免震構造について図面とカットモデル、基礎部材の原寸モデルなどを基に詳しく解説。特に注目すべき部分は、やはりトラス構造の「木造耐震シェルター」であり家屋内に居室タイプのシェルターを設置する



挨拶する宮島教授

ケースや建物全体をシェルター化する方式など木造住宅においては画期的な手法が提案された。また、基礎構造についてはユーザーの需要によって耐震と免震の両方式が選択可能な内容であり、特に免震構造は基礎コンクリートの寿命と耐力を上回る構造として二重三重に安全性を高めつつ、コストダウンも図れる新しいタイプの金物を開発した。今までなかなか実現できなかった木造住宅の免震対策が施工もし易い非常にシンプルな形で提供されそうであり、参加者の注目を集めた。

新たなメンバーも参画し活発に意見交換

今回も新城市から駆けつけた(株)タカヤナギの高柳さんは、愛知県産材をEDS処理して建具造りをした経過からコスト比較を行い、EDS木材を使用すると材料の養生に掛かる経費がゼロとなり、結果的には最も低コストだったと経済性も優位になることを説明し、参加者の注目を集めた。また、このような組織を活かすには行政が宣伝に積極的に関与すべきと経験談を語った。木造耐震シェルターのカットモデルを作成した(株)匠の杜工場の宮尾さんは木造でもトラス構造を生かして耐震シェルターが造れることで、設計や

製作を担当したスタッフのモチベーションも高まり新たな取り組みに意欲が湧いてくると語っていた。今回から新メンバーとして、JIA(日本建築協会)群馬地域会代表幹事の長井淳一氏と伊勢崎市の大進建設(株)から丹羽義人氏が加わり、検討会議はさらに充実感を増したようである。

群馬200年健康住宅検討会議が発足して1月半が経過しましたが、先行している山梨県でも動きが本格化しそうです。検討会議のメンバー各位は自覚を持ってスピーディに行動しよう!

県も積極的に支援を進めたい 福田総理もエール！！

県の建築住宅課松根次長は、「ユーザーの要望は必ずしも全部が200年の耐久性を求めているとは限らない。やはりコストの部分が一番気になるので

50,100,150,200年というようにグレードで選択できるようにグレードで選択できるように提案をして欲しい。」と取り

組み方に幅を持たせるよう注文すると共に県の支援策として、「この検討会議の提案を進めるため来年度に県も何らかの支援を考えていきたい。補助金になるのか委託費がいいのかはこれから検討するが、いずれにしろ公的機関での審査を受けるにもかなりの費用が掛かると聞いて励みになる発言を聞き、具体化を加速していく上で公的支援は非常に大切であり行政との連携を強化できそうである。

後日談ではあるが、過日この検討会議の話を聞いた金子泰造県議（自民党県連幹事長）がEDS研究所を視察し、石井所長の説明を聞いた幹事長は「是非この技術を普及させたい。」と言っていた。幹事長が上京の折に「福田政権が公約している200年住宅の具体化が群馬県で進められている」と福田総理に報告したところ、福田総理からは「地元群馬でやってくれてありがたい。是非頑張って推進してほしい。」との返答があったと聞く。国の補助制度も徐々に形が見えてきており、それと相まって建築住宅課の素早い動きが見られ、来年度に向けて責任と期待が高まってきた。



【第2回検討部会で白熱した議論を展開する会員】

ぐんま新技術フェア
2007 開催

11月6日～7日
AM9:0～PM5:0

県庁1F
県民ホール

建設業協会吾妻支部が勉強会

EDS研究所を視察

群馬建設業協会吾妻支部（池原支部長）は公共事業の需要が低迷する中、業種移転の選択肢の一つとして吾妻の豊富な木材資源供給に取り組めないか検討してきたが、10月12日午後会員ら●名でEDS研究所を視察した。今回で2回目の勉強会であるが、脂の多い唐松や赤松がEDS処理によって銘木のような落ち着いた木肌に改質されることや、節に釘が打てるほどに扱いやすくなっていることなどEDSマジックを実際に体験

し一様に驚いていた。同行した中之条土木事務所の佐々木所長は「建設業者は木材利用のブロー、しかし吾妻の唐松は品質が優れているのに活用されていない。建設業界を活性化させる立場からも吾妻産木材のブランド化を進めよう。」と挨拶し、視察団一行は業界の再生に手詰まり感が見られるなか新たな可能性を真剣に模索していた。

「ムサビEDSバンブー」プロジェクト

武蔵野美術大学(ムサビ)のとくみ

武蔵野美術大学は今年度から文部科学省の支援を受けて「EDS竹」によるスマトラ沖地震被災地域の住宅復旧支援手法の研究に着手した。10月18日から1週間にわたり造形デザイン学科の宮島主任教授ら4名がインドネシアを訪問し、●大学との意見交換を行った。EDSバンブーによる住宅復興は、スマトラ沖地震の直後に被災住宅を低コストで早く復旧する方法としてEDS研究所の石井所長が提案しジョグジャカルタ周辺に実証用の5棟を寄贈しており、インドネシア政府からは組織的な支援を要請されていた。「ムサビ」では学生に対して実学を学ばせると共に広い視野と国際感覚を備えた人材の養成を進めていくのがねらいであり、新しい教育手法として注目したい。



発行 '07/11/2
ぐんま200年健康住宅
検討会議事務局

住所：〒371-0101
勢多郡富士見村赤城山
1,863番地
Tel：027-288-7211
Fax：027-288-7330
E-mail: eds-lab@
amber.plala.or.jp

担当：石井拓司